

地歴公民科「日本史A」授業実践紹介

授業者：下垣 豪

学年：3年 キャリア探求科

単元名：第一次世界大戦と日本

本時のねらい

- ①第1次大戦の反省の上に成立した国際協調外交にも問題点が多く内在することを理解し説明できる。
- ②発表内容を共有し、理解を深める。

単元の構成と授業の流れ

第1時 第一次世界大戦と大正政変	第8時 都市化の進行と大衆文化の形成
第2時 第一次世界大戦と日本	第9時 大正・昭和初期の学問・芸術
第3時 大戦景気と米騒動	第10時 大正・昭和初期の学問・芸術
第4時 民族運動の高まり(ヴェルサイユ体制)	第11時 第4時・第5時の振り返り
第5時 国際協調外交(ワシントン体制)	第12時 パフォーマンス課題(発表)準備
第6時 政党政治の展開	第13時 パフォーマンス課題(発表)
第7時 社会運動の広がり	

※第4時(ヴェルサイユ体制)、第5時(ワシントン体制)の学習内容をもとに、第11時(前々時)にヴェルサイユ体制とワシントン体制の問題点について振り返って確認し、その内容をもとに、グループで発表し、その内容を共有する。

- ①既習の国際秩序について振り返りを行う。(第11時)
- ②グループで発表原稿及び提示資料を作成する。(第12時)
- ③各グループで発表すると同時に、生徒は他のグループの発表について評価する。(第13時)

授業のルーブリック

	2	1	0
I 関心・意欲・態度	意見を積極的に発表するなどし、本時の学習活動に意欲的に取り組めた。	意見を発表し、グループでの役割を果たすなど、本時の学習活動に取り組めた。	本時の学習活動に集中して取り組めなかった。
II 思考・判断	歴史的事象に内在する問題点について、様々な視点から気づくことができる。	歴史的事象に内在する問題点に気づくことができる。	歴史的事象に内在する問題点に気づくことができなかった。
IV 知識・理解	歴史的事象についての知識を十分に理解している。	歴史的事象についての基礎的知識を理解している。	歴史的事象について、基礎的知識の理解が不十分である。

単元を通して身につけてほしいこと

歴史的事象について正確に理解した上で、過去、また現代の歴史的事象と比較するなどし、そこに見られる問題点に気づくことができる歴史的思考力を身につけてほしい。科目全体の学習を通しては、①現代社会でおこる様々な出来事に内在する問題点に気づくことができる、②将来どのような問題が発生する可能性があるかを予測できる、①②を通して主権者の基礎的な力としての歴史的思考力を自身の物事に対する見方・考え方として定着させる、以上のことを期待している。

実践の背景

本実践は、2 学期中間考査前後で学習した単元「第一次世界大戦と日本」全 13 時間の授業のうち、大戦後の国際秩序であるヴェルサイユ体制及びワシントン体制についての理解を深めることを目的に実施したものである。世界的規模の戦争が二度起こることは生徒も知識として持っている歴史的事実だが、本実践では、第一次世界大戦後の国際秩序には当初から問題があり、その後の第二次世界大戦を回避するには不十分な体制であったことを理解することを目的としている。

日本史 A では知識の習得よりも、歴史的事象の学習を通じて現代社会の諸課題を解決するために必要な歴史的思考力を培うことを目的としているが、通常の学習では知識の習得中心になりがちである。そのため不定期にグループワークを取り入れ、思考・判断を必要とするパフォーマンス課題に取り組んでいる。今回のパフォーマンス課題をとおして、第一次世界大戦後の国際秩序の問題点についての理解を深めるとともに、現代の国際社会にも戦争につながる芽があることを気付かせたいと考えている。

授業改善のアプローチ

グループでの発表は、1 学期から不定期に取り入れていたが、授業内容の振り返りにとどまる内容で、そこで得られる理解が、十分に学ぶ値打ちのあるものとは言えなかった。本実践では、7月に岡山大学大学院教育学研究科桑原敏典教授からいただいたご助言をもとに、単元全体を見通した課題を設定することを意識した。今回はそのことに留意し、本単元で得られるもっとも重要な学びは、戦争を繰り返すことにつながる問題点であり、それがいつの時代にも共通して存在しうる現代的な課題として理解できるよう配慮した。

単元のヤマ場となる授業場面

ヤマ場となる授業場面は、振り返りをしながら問題点を探る第 11 時と、発表を行う第 13 時である。既習内容から、グループで話し合いながら問題点を見つける過程が最も学ぶ値打ちのある部分であり、それを発表することにより問題点を共有し、新たな気づきや理解を深めることにつながると考えている。その点では、答えを与えられるのではなく、振り返りをしながら、個別の事象について、そこからどのような問題点が生まれるのかを考える第 11 時はとても重要な過程である。そして、それらを発表し、互いに評価する第 13 時は、それぞれの班で考えた内容を客観視し、自分たちの理解を深める締めくくりの過程である。

パフォーマンス課題

課題「第一次世界大戦後の国際秩序にはどのような問題があったか」

上記の課題について、グループで意見をまとめて発表する。



発表準備 (第 12 時)



発表 (第 13 時)

評価 ~パフォーマンス課題のルーブリック~

A	声の大きさ	よく聞こえる	3	2	1	聞き取りにくい
	目線	聞き手の反応を見ている	3	2	1	聞き手を見ない
B	説明内容のわかりやすさ	内容が十分理解できる	3	2	1	内容がわかりにくい
C	資料の出来	内容の理解を大いに助けている	3	2	1	内容を補っていない
D	説得力	説明に十分な説得力がある	3	2	1	説明に説得力が足りない